

### バーンスタイン生誕 100 年

2018 年はレナード・バーンスタイン生誕 100 年。アメリカが生んだ最大の音楽家バーンスタインの足跡をたどり、その魅力に迫ります。

#### 生涯

1918 年 8 月 25 日、ウクライナから移民したユダヤ人を両親にマサチューセッツ州ローレンスで生まれた。10 歳の頃叔母のピアノに興味を持ち、本格的な勉強はハーヴァード大学で始めた。卒業後カーティス音楽院で指揮法を学んだ。

1943 年ニューヨーク・フィルの副指揮者になり、急病のワルターの代役で演奏会にデビュー、全米にラジオ放送され一躍有名になった。戦後はイスラエル・フィルの顧問や、ヨーロッパで客演をしながら、作曲活動を行い 57 年『ウエストサイド物語』が大ヒット。

58 年から 69 年までニューヨーク・フィルの音楽監督を務め、61 年には同フィルを率いて、東京文化会館のこけら落としに小澤征爾を伴い初来日している。教育活動にも力を注ぎ、90 年札幌で PMF（パシフィック・ミュージック・フェスティバル）を創設した。同年、指揮からの引退宣言をした直後の 10 月 14 日、ニューヨークの自宅で 72 年の生涯を閉じた。

#### 指揮者

戦後のクラシック音楽界で、カラヤンと人気を二分した巨匠だった。半世紀近い経歴の前半はニューヨーク・フィルの音楽監督として、後半はフリーになりヨーロッパを中心に活躍した。

##### ●平和のためのコンサート



ベトナム戦争さなかの 1973 年 1 月 19 日 21 時、ワシントン大聖堂で有志のオーケストラ、合唱団と無料コンサートとしてハイドンの「戦時のミサ」を演奏した。大雨にもかかわらず定員を大幅に超える 15000 人も観衆が集まり、外でも聞けるように急ぎスピーカーが用意され、聖堂内に入りきれなかった 12000 人が雨の中聞き入っていたという。この日の録音は存在しないが、翌日の録音がレコードで発売された。（レコードの売上収益もベトナム平和促進活動のために寄付されることになっていた）★LP X66.6

一方、同日同時刻にワシントンのケネディ・センターで行われたニクソン就任式記念大演奏会ではチャイコフスキーの「序曲 1812 年」が演奏され、戦争賛美につながる演奏ともとれる重苦しい雰囲気でも観客もまばらであったという。このエピソードは手塚治虫が「雨のコンダクター」という漫画にし、1974 年に発表している。（図書「手塚治虫クラシック音楽館」平凡社 2008 年 ★4.38-T319-08）

（裏に続く）



## ●マーラー全集

マーラー音楽の世界的なブームのきっかけをつくったと言われ、世界初の交響曲全集録音を完成させた。最初の全集はマーラー生誕100周年にあたる1960年2月の第4番を皮切りに、67年に完結させた。当時マーラーのレコード録音自体がめずらしく、作曲家で指揮者でもあったマーラーへの共感が情熱を生んだと自身が語っている。80年代に2度目の全集をライブで録音した。大半はウィーン・フィルとの共演だが、一部ロイヤル・コンセルトヘボウ管、ニューヨーク・フィルも起用されている。★CD 1A1.53~70

## 作曲家

クラシック、ポピュラーといったジャンルを越えてさまざまな音楽を残した。「オン・ザ・タウン」「キャンディード」などのミュージカル作品、映画「波止場」、バレエ「ファンシー・フリー」などに楽曲を提供、一方で現代社会の不安と魂の救済を主題とした作品も書いた。

## ●ウェストサイド物語

シェイクスピア「ロミオとジュリエット」を翻案し、現代の都市が宿す問題を浮き彫りにした。映画化により世界中で圧倒的に支持され、20世紀最高のミュージカルの一つとなった。

ミュージカル映画「ウェスト・サイド物語」★DVD770-771

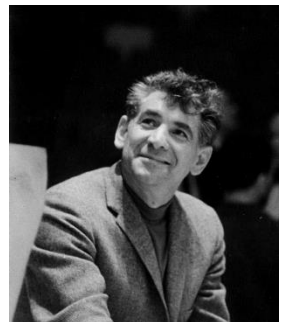
## ●不安の時代（交響曲第2番）

W.H.オーデンのピューリッツァー賞受賞の詩をもとにしている。1947年詩が発表されるとバーンスタインは心をひかれ、出版の直後から音楽化に取りかかった。1959年ニューヨーク・フィルを率いてザルツブルク音楽祭にデビューした時の記念碑的ライブ演奏。★CD 6A4.66

## 教育者

ニューヨーク・フィルの音楽監督に就任してまもなく青少年を対象とする鑑賞教育プログラム「ヤング・ピープルズ・コンサート」を始めた。自ら原稿を書き、リハーサルに時間をかけのぞみ、週末のゴールデン・アワーにテレビ放映された。『音楽ってなに?』ほか全13枚 ★BLD122~134

音楽家の育成にも尽力し、タングルウッド音楽祭からは、アバド、マゼール、小澤征爾、大植英次など、音楽界の逸材が生まれた。アジア圏を含めた世界中の若い音楽家が集まる音楽祭を作るというバーンスタインの夢はPMFとして引き継がれ、今も脈々と生き続けている。



## 著作

自著は5冊あり、すべて邦訳が出ている。

『音楽のよろこび』1959、吉田秀和訳、音楽之友社 ★3.0-B458

『青少年コンサート』1962、岡野弁訳、全音楽譜出版社 ★3.0-B458

『音楽を語る』1966、岡野弁訳、全音楽譜出版社 ★0.9-B458

『答えのない質問』1976、和田旦訳、みすず書房 ★4.0-B458

『バーンスタインわが音楽的人生』岡野弁訳、作品社 ★6.9-B458-12

★は資料請求記号

写真© 辻修

2018年8月発行

東京文化会館音楽資料室